

自ら進んで読書に親しむ生徒の育成

～ブックウォークの取組を中心にして～

学校図書館教育班 岩田一樹（中学校教諭）

現状と教師の願い



生徒の実態

普段の生活の中で、読書する習慣がほとんど身につけていない。



教師の願い

読書をするきっかけ作りをして、読書の楽しさを味わわせる。



ねらい

読書習慣の定着 読書意欲の向上

自己課題解決策

ブックウォークの読書指導の実践

「ブックウォーク」とは、生徒が自分で目標を設定し、自分のペースで読書をしていける井上一郎氏が提唱する読書指導の取組。

（ブックウォークの流れ）

- ①宣言書作成 自分の目標を設定する。
- ②読書 あくまでも自分のペースで行う
- ③読書カードの記入 読書時間・量・感想を記入する。
- ④ブックウォーク終了 認定書をもって終了。

（実践の工夫）

- ☆ 満足度を猫のマークを塗りつぶすことで表しました。
- ☆ 毎回教員がコメントを入れて励ました。

| 日時 | 一言感想 | 満足度 |
|-------|-------------------|------|
| 6月25日 | 表紙の絵がとてもよくあった。 | ☺☺☺☺ |
| 6月26日 | ページ数が進んでよかった。 | ☺☺☺☺ |
| 6月27日 | 本当の世界も私も見つけたと思えた。 | ☺☺☺☺ |

ブックウォークと関連させた授業の工夫

●自分が読んでいる本の紹介

自分が読んでいる本のストーリーを踏まえて、登場人物の視点で日記を書き、クラス内で発表しました。

●教師による本の紹介

本の情報とともに、図書館利用を促すために、授業の最初に図書室内の本を紹介しました。

生徒はブックウォークに取り組み、本に親しんでいる姿が多くみられました

★昼休みや休み時間を使った読書。

★図書室の利用・貸し出し状況の増加。

★自分が読んでいる本以外の本に関心をもち、読書の幅を広げる生徒もいました。

「これから読み進めていくのが楽しみです」
「もう2冊目が終わってうれしいです」
(生徒の読書カードの感想)

Fine!

「おもしろそうな本が沢山あったので、読んでみたいと思いました」(本の紹介の授業での生徒感想)

しかし、だんだんと意欲が低下してきました。そこで!こんな改善をしてみました。

改善① 読書カードの工夫

- ★自分の読書の成果が段階的に見えるようにすることで、充実感や、満足感を味わえるようになると考え、4冊まで記入できるようにしました。
- ★読み終わるごとにカードに図書委員がシールを貼り、たくさん本を読んだ生徒を全校表彰して、次の読書への意欲を高めました。

| 冊数 | 宣言 | 期間 | 満足度 |
|-----|----------------------------------|----|------|
| 1冊目 | 私「東洋の物語・風俗・歴史」を1日 5分 ページ 冊 読みます。 | | ☺☺☺☺ |
| 2冊目 | 私「宇宙のふし」を1日 5分 ページ 冊 読みます。 | | ☺☺☺☺ |
| 3冊目 | 私「金銀」を1日 5分 ページ 冊 読みます。 | | ☺☺☺☺ |
| 4冊目 | 私「リス」を1日 5分 ページ 冊 読みます。 | | ☺☺☺☺ |

改善② 読書が苦手な生徒への個別指導

- ★読書が苦手な生徒には、能力や関心に応じて個別読書指導を行いました。場合によっては一緒に本を探すことも行いました。下の感想（読書カード）を見ると、なかなか読みたい本に巡りあえなかった生徒が満足している状況がわかります。



いい本が見つかった

研修の成果と課題

- 成果 ○読書習慣の定着と読書に親しむ態度の向上。 ○個別指導による個に応じた読書意欲の向上。
- 課題 ○興味・関心を継続させるための工夫・改善。 ○学校全体・司書補助との連携。